岐阜県農政部施設等評価に関する検討会　議事要旨

１　日時

令和６年９月２０日（金）　１３：３０～１４：３０

２　場所

シンクタンク庁舎　1－1 会議室

３　議題

事業実施地区の評価に関すること

評価対象事業

【農業経営課】

強い農業・担い手づくり総合支援交付金（地域担い手育成支援タイプ）

【農産園芸課】

強い農業・担い手づくり総合支援交付金（産地基幹施設等支援タイプ）

【A 評価地区について】農業経営課

■実績値について、トラクターを使っている 1 経営体の面積が拡大したという見方で良いか。また、池田町と高山市で面積の差があるのはなぜか。

・トラクターについて、その通り。面積について、池田町の方は土地利用型で水稲、麦、大豆を生産しているのに対し、高山市の方は夏秋トマトを生産している。後者は施設園芸になるため、前者に比べて面積が少ないように見えるが、トマトで効率的に収益を上げている経営体である。

【A 評価以外地区について】農産園芸課

〇西美濃農業協同組合　海津カントリーエレベーターについて

■実績値が令和 4 年度に一度下がり、令和 5 年度に上がった理由は。

・新規需要米への切り替えが進んだためである。令和 4 年度に主食用米よりも収入が見込める飼料用米や加工米への切り替えの推進が図られた。それにより、主食用米としての出荷量は減少し、令和 4 年度は多収性品種の比率が減少する結果となった。ただ、令和 5 年度はまた増加に転じたうえ、今年度は特に主食用米の値段が変わってきている状況にあるので、地域においては需要に応じた生産を推進しているところ。今後も西美濃農業協同組合を中心として生産の拡大をお願いしていきたいと考えている。

■地域の特性としてハツシモの作付け割合が高い傾向にあると思うが、西美濃農業協同組合としてほしじるしの生産を展開しているところか。また、多収品種に移行した農家はどのくらい増えたのか。

・今回の事業は受益エリアが海津市となっており、担い手の集約が進んでいることから事業開始時と比較した農家数の変化は少ない。
ほしじるしへの誘導を図っている理由としては、ハツシモとほしじるしの収穫時期が違うことにより、作期分散になるためである。また、ハツシモのような単価が高い品種から他品種へ変更することで農家の収入が減ってしまうことを補うため、ほしじるしのような多収米へ誘導することにより、10a 当たりの収入を減らさない、というところを説明しながら作付け展開を図ってきたところである。

■米不足の昨今だからこそ、生産体制等見直すタイミングであると感じる。そのためには作付けは重要なポイントになってくるのでぜひ推進を図っていただきたい。

・今ほど米に対する関心が高いことはあまりないので、機会ととらえて推進を図りたい。

■多収量米であるほしじるしは 10a 当たりの単位収量は他に比べてどのくらい多いのか。またそれは今後さらに伸びるのか。

・10a 当たり 1 俵（60 kg程度）以上は多くとれるという感覚を農家は持っていると聞いている。肥料を増やせば収量が上がると思うが、コストの面や食味等に影響が出るので、関係機関が連携しながら、どのあたりが適正かということを検討しながら進めていきたい。

〇いび川農業協同組合　大野果実共同選果場について

■達成率が悪い理由として、梅雨明け後の高温等を理由に挙げているが、それはこれからも続くと考えられる。栽培技術等は大切だと思うが、担い手確保も重要な課題ではないかと考える。

■同じく、担い手の確保、育成が重要だと思う。機械でできるところは機械化を進めつつ、担い手が増えるような仕組みづくりが大切ではないかと感じた。

・我々も担い手確保は非常に重要と感じている。関係機関が連携し、年 5 回ほど柿帰農塾というものを開催していて、延べ 35 人の方に参加いただいている。こういった取り組みが栽培につながっていけばと考えている。今後も取り組んでいきたいと考えている。